

# 古宇郡漁協地域プロジェクト(ホタテ貝養殖業)

( ホタテ貝養殖業者1経営体 )

## もうかる漁業創設支援事業検証結果報告書 (資源管理に伴う他魚種転換等の経営多角化の実証事業)

事業実施者:古宇郡漁業協同組合

実施期間:平成28年6月1日～令和3年5月31日(5事業期間)

### 1. 事業の概要

本事業は、スケトウダラ漁業者を含む沿岸漁業者の協業化、及びホタテガイ養殖業と他種漁業との兼業による経営の多角化を推進するため、現在海外向け輸出が好調な2年貝の生産に取り組み、スルメイカ、ホッケ、ブリ、スケトウダラなどの回遊性資源等、不安定な資源に依存しない、計画的かつ安定した生産体制を構築するとともに、地元の若者やUIターンなどの新たな漁業の担い手を創出し、地域の活性化を目的としたものである。

この計画に基づき、スケトウダラ漁業者を含む沿岸漁業者8名により合同会社を設立してホタテガイ養殖業を専業化し、ホタテガイ養殖生産に取り組んだ。また、ホタテガイ養殖作業に従事しない日には、他種漁業に兼業として取り組むなど、沿岸漁業経営の多角化にも努めた。

### 2. 実証項目

#### 【生産に関する事項】

スケトウダラTAC削減等に伴う生産体制の転換に関する事項

#### A 経営の多角化

スケトウダラ漁業者を含む沿岸漁業者グループが取り組む、ホタテガイ養殖業と他種漁業との兼業による経営の多角化を推進するため、ホタテガイ養殖施設を、現行の9基より24基増設し、33基での生産体制に拡大する。

また、稚貝は他産地から調達し、且つ、養殖期間の短い2年貝の生産を行うことにより、養殖作業の軽減及び期間の短縮を図る。

#### B 合同会社の設立

スケトウダラ刺網漁業者を含む沿岸漁業者グループにて協業化し、合同会社を設立する。

### 3. 実証結果

ホタテガイ養殖業を営むことで、他種漁業との両立が可能となり経営の多角化が図られ、サケやイカなど不安定な他魚種への依存度が軽減された。

水揚量は計画を下回った年もあったが、コロナウィルスの影響で全量の出荷が出来なかった4期を除いて、水揚額では全て計画を上回る結果となった。

単位:トン、千円、円

	計画	1期目	2期目	3期目	4期目	5期目
水揚量	180	141	153	185	280	325
(計画比)	-	0.78	0.85	1.03	1.56	1.81
水揚額	45,107	80,062	53,423	56,846	38,628	74,518
(計画比)	-	1.77	1.18	1.26	0.86	1.65
平均単価	250	569	350	307	138	229
(計画比)	-	2.28	1.40	1.23	0.55	0.92
不安定な資源への依存度	31%	25%	33%	24%	29%	24%

計画通り、平成27年4月に漁業者8名にて、合同会社泊ホタテ養殖部会を設立した。

合同会社の設立によって作業が効率化され、漁業者個々の負担が軽減された。

事業の経過と共に日々の作業手順も更に良くなり、陸上・海上それぞれの作業負担が軽減されたため、4期目以降は新たに採苗にも取り組んだ。

## 2. 実証項目

### C 作業の機械化

ドラム式ホタテ貝ミキサーを導入し、出荷時の貝洗浄・選別作業の機械化を図り、作業を効率化する。

### D 作業船の兼用

合同会社の社員の所有船(定置漁船)をホタテガイ養殖に兼用する。合同会社所有の専業船と2隻体制で行う。

### 【流通販売等に関する取り組み】

#### E 販路の安定的な確保

北海道漁業協同組合連合会との共同販売を主軸とし販路の安定的な確保に取り組む。

## 3. 実証結果

ドラム式ホタテ貝ミキサーを導入した結果、1日の出荷作業時間の短縮は出来たが計画には達しなかった。

出面人件費については、2期、3期は時化続きで出荷が計画通り進まず、1回当たりの出荷量を増やしたため全体の作業時間が増加し、結果的に出面人件費が計画を上回る結果となった。4期以降は、成長が良く、水揚量が計画を大きく上回り、さらに5期は4期の未出荷分もあったため、出面人件費が計画を上回った。

1日の作業時間 10時間→8時間  
出荷作業時間 6時間→4.5時間

作業が効率化され、作業時間が短縮されたことで、1日当たり従来の2倍の量の水揚が可能となった。

#### 出荷時出面人件費

単位:千円

	計画	1期目	2期目	3期目	4期目	5期目
出面人件費	1,248	1,180	1,495	1,692	1,369	2,790
(計画比)	-	0.95	1.20	1.36	1.10	2.24

1期～3期までは2隻体制にすることで作業効率上がり船上作業日数(計画65日)を短縮することが出来た。

4期目以降は新たに採苗作業を開始したこと、ホタテガイの成長が良く、水揚量が計画を大きく上回ったことから船上作業日数が増加した。

単位:日

	計画	1期目	2期目	3期目	4期目	5期目
船上作業日数	65	65	60	60	70	96
(計画比)	-	1.00	0.92	0.92	1.08	1.48

社員の所有船を養殖作業に兼用することで作業船の導入コストの削減が図られた。

北海道漁連との共同販売をすることで、安定的な販路が確保でき、価格も安定的に高値で推移した。

#### 4. 収入、経費、償却前利益及びその計画との差異・その理由

##### 【収入】

5期を通して計画を上回る水揚額であった。1期、2期は水揚量は計画を下回ったが、ホタテガイの単価が良かったため計画を上回った。3期以降は水揚量は順調に推移したが、4期は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、輸出向け出荷が滞り全量を出荷することが出来なかった。しかし、5期目については新型コロナウイルスの影響で単価は低いものの、輸出向け出荷は回復し、ホタテガイの成長も良かったことから水揚額は計画を大きく上回っている。

##### 【経費】

水揚げが好調であったため、販売経費が計画を上回った。また、想定以上にカゴ等の消耗が激しく、船もメンテナンスを要したとともに、4期目以降は経費の削減のため採苗を実施したことから、漁具費や修繕費が計画を上回った。さらに人件費については、3期以降の水揚げ量が好調のため出荷作業が増加したことにより出面人件費が増加したことから計画を上回った。

##### 【償却前利益】

4期は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、輸出が滞り、国内需要も減少したことから全量を出荷することが出来ず、償却前利益も計画を大きく下回った。しかし、それ以外では順調に推移し、特に1期は販売単価が良かったこと、5期は成長が良く、前期の未出荷分を含め水揚げ量が増加したことから販売金額が計画を大きく上回り、償却前利益も4倍以上の金額が得られた。

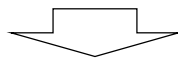
単位:トン、千円

	1期目	2期目	3期目	4期目	5期目	平均
水揚量	141	153	185	280	325	216.8
水揚額	80,062	53,423	56,846	38,628	74,518	60,695
収入	81,032	54,460	56,846	41,388	77,660	62,277
経費	53,074	47,871	51,930	35,430	51,680	47,997
償却前利益	42,295	12,902	8,129	6,232	36,588	21,229

#### 5. 次世代船建造の見通し

計画:償却前利益 8.2百万円 × 次世代船建造までの年数 15年 > 養殖施設等の合計額84百万円  
(改革5期間の平均値を基に算定)

漁船	:81,000千円×15年/25年=	48,600千円
養殖資材	:29,626千円×15年/15年=	29,626千円
養殖機器等	:5,903千円×15年/15年=	5,903千円
合計		84,129千円



実績:償却前利益 21.2百万円 × 次世代船建造までの年数 15年 > 養殖施設等の合計額84百万円  
(改革5期間の平均値を基に算定)

ホタテ単価が好調に推移し、計画を上回る償却前利益が得られ、養殖施設等の更新は計画どおり見込める見通しとなった。

#### 6. 特記事項

4期は新型コロナウイルスの影響を大きく受けたが、それ以外では順調に水揚げ高を得ることができた。また、4期目からは経費削減のため採苗にも取り組んだ。今後も効率的な作業の実施や経費削減、安定的な販売ルート確保等を目指し、持続的な収益確保が出来るように今後も取組みたい。

事業実施者:古宇郡漁業協同組合 (TEL:0135-75-3111)

(第112回中央協議会で確認された。)